

THE WEEKLY NEWS OF FUTTSU-CHUO

率先しよう Lead The Way

RI 会長 ウィリアム・ビル・ボイド



2006~2007

残心 に あり

富津中央 RC 会長 永島 強

国際ロータリー 第 2790 地区 富津中央ロータリークラブ 創立:1966/10/13 加盟承認:1966/12/12
RI D2790 FUTTSU-CHUO ROTARY CLUB Organized : Oct./13/1966 Chartered : Dec./12/1966

No.2002 第27回例会 2007. 2. 1 晴

点 鐘 : 永島 強 会長

進 行 : 榎本守男 SAA

ソング : 君が代、それでこそロータリー

会長挨拶

永島 強 会長

皆様今日は、今日から2月です。2月1日は「重ね正月」、「取越し正月」等と言って、もう一度正月の祝を行う風習があるそうです。それは、厄年の人がもう一度正月の儀礼を行ってもう一つ歳をとったことにし、厄年を飛び越してしまう為と言われます。又「一夜正月」とも言います。

あさって3日は節分です。節分は各季節の始まりの日(立春、立夏、立秋、立冬)の前日のこと、つまり「季節を分ける」ことを意味していましたが、今では立春の前日のみを指すようになりました。「豆まき」は季節の変わり目に起きそうな災害、疫病などの厄を鬼に見立てて追い払うためだそうです。

厄年は気にしたくないけど、やはり気にする人が多い様です。私の地区では10年前より有志により「どんど焼き」を実施しています。2月3日節分の夕方5時より行います。諸厄を払いたい方はどうぞお出で下さい。お待ちしております。

会長報告

なし。

幹事報告

大網庄一郎 幹事

1. 行事出席依頼

(1) 4月21日松戸 RC 50周年記念式典

(2) 君津地方小中学校書き初め展覧会助成のお礼と表彰式への出席依頼 2月3日。

2. 塩山 RC お花見例会

(1) 開始時間が午後6時と分かりましたので、改めて出席を取り直します。

(2) 第25回会報の幹事報告で花見例会が3/25となっていますが、2月14日の誤りです。お詫びして訂正します。

結婚・誕生祝



結婚 : 伊藤一夫・くに S31.2.2

永島 強・てる子 S47.2.19

誕生 : 石渡 鋼 S19.2.10 原田雅式 S22.2.15

〒293-0042 富津市小久保2868

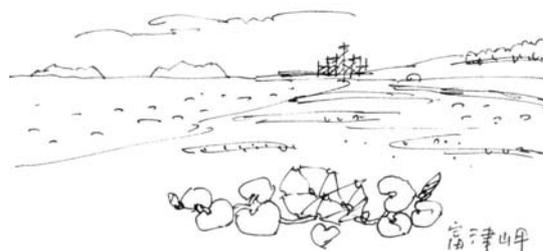
さざ波館

Sazanami-kan

2868 Kokubo Futtsu-shi Chiba-ken,

Zip code 293-0042

Tel.0439-65-3373 Fax 0439-65-3304



一言

伊藤一夫

結婚 50 年を過ぎたようですがよく長持ちしたものです。これからも益々女房を大事にして、人生を楽しみたいと思います。

永島 強

当クラブは創立 45 周年、我が夫婦は結婚 35 周年です。今後もお互いに愛し合い、高め合い楽しく過ごして行きましょう。

石渡 鋼

小さい頃は病弱気味だった愚生もまもなく 63 歳となります。つらつら思うところは日々、仕事、家庭、健康のことなど擦った揉んだと過ごしているので「あつという間の人生だったなあー」くらいである。

昭和 19 年生まれ、リンゴやミカンにも当たり年(豊作)とはずれ年(不作)があるが、人の出来不出来もこれに当てはまるようで、こう書いたのが同級生に知れたら袋叩きに遭うかも知れないが全国的にも傑出したのは居ない、せめてこれと言ってはこれまた本人に大変失礼に当たるが、愚生と誕生日を同じにする高橋英樹さんはエライ方、時代劇映画は勿論テレビでの活躍ぶりは周知の所である。例会で「生まれたところを間違えるとそれなりの人生しかない」と嘆いたら、三平会員より「自分の近くに高橋家があったことがあり、普通の暮らし方で、きっと本人の努力だっぺ」とのこと。ごもつとも、自分の不遇を親のせいにする今日日の馬鹿学生とちつとも変わらぬ愚生であった。

原田雅式

誕生日のお祝いを頂き、ありがとうございました。今月で60才、還暦となりました。私は2月15日生まれですが、北朝鮮の金正日(総書記)は2月16日生まれなんです、同じ日でなくてほっとしています。北朝鮮では2月16日は国をあげての、お祭りのようです。私の方は、阿里山からもらった、赤いちゃんこを着て写真でも撮ろうと思います。

それと、私はロータリー入会が2月で、1周年になります。国際ロータリーが1905年2月23日スタートしたそうです。私は、2006年2月23日に入会です

から、101年目の同じ日になります。これも何かの縁ですかね。入会記念日を忘れないように大切にしていきたいと思います。

卓話

蒸気機関車の思い出

伊藤一夫



車掌時代、この地区を走っていた「8620」型蒸気機関車で、時々石炭投入の練習をさせて貰った。左手で鎖を引いて釜の蓋を開け右手で石炭を火床に万遍なく投げ入れるのだが、なかなか難しい。走行時は揺れがひどいのもっと大変。揺れと言えば、車掌が乗務するのは機関車のすぐ後ろに付く緩急車でこれも揺れがすごく別名「ガタカン」と呼ばれ、今なら一日乗れば体が壊れる。「C58」は、釜蓋の開閉は足踏みなので、石炭投入は両手でやる。

ニコニコ BOX

三平榮男 親睦委員

石渡 鋼 誕生祝

伊藤一夫 結婚祝、誕生祝

原田雅式 誕生祝

永島 強 結婚祝

大網庄一郎 台湾へ下見に行ってきました。

合計 11,000 円

出席報告

渡辺 務 出席委員

| 区分 | 会員数 | 出席 | 欠席 | MakeUp | 出席率 |
|----|-----|----|----|--------|-----|
| 今回 | 20 | 18 | 2 | | 90% |
| 前回 | 20 | 16 | 4 | | 80% |

ロシアの旅(見て・聞いて・感じた) - その3

高島治雄



赤い広場にはレーニン廟がある。レーニンを始め歴代の大統領などが祀られている。日本人も1人(故片山)本人の願いが叶えられ祀られていると聞く。このレーニン廟にロシア人は勿論海外の人々も含めて参拝(見学?)をする人々の長蛇の列を目の当たりにし驚かされた。

赤煉瓦で囲まれたクレムリンの中には、プーチン



(後方がプーチン大統領の執務ビル)

大統領の執務する建物をはじめかって戦利品を陳列してあった武器庫(今は博物館になっている)またロシア最高会議大会宮殿そして白亜のロシア正教教会ウスペンスキー聖堂等数々の建築物が点在している。そしてこれらの一部は市民にも観光客にも公開され、ゲートをくぐって入ることが出来るのだが、衛兵が配置されているものを持ち物検査などはなく大変開放的な雰囲気を感じる。

モスクワでもう1つ見逃せないのがトレチャコフ美術館であろう。主にロシア人の絵画を中心にした美術館であり、イコン画→肖像画→家庭画→Story

画とロシア絵画の流れがよく分かる配列がなされている。特に板に画いたイコン画(壁などに画くのはフラスコ画)の展示量は世界でも屈指と聞く。入口に日本人が寄贈した竹のオブジェが印象的であった。



モスクワの一般家庭を訪問して

モスクワ郊外の丘の上に建つ10数棟の団地、これもかつてのモデル的なレーニアパートの1つである。家賃は無料、保育園、小・中学校何でも間に合うショッピングセンター等々が周囲に配され、職種によってアパートが決まり、更に家族構成により部屋数が決まったと言う。

ペレストロイカ以降、今はその住人に払い下げられ個人名義の家になった。その団地の中の一軒の家を訪問し交流を深める機会を得た。



ご主人・奥さん・二人娘の四人家族構成のアブラモカさんご一家である。2LDKのお宅だがキッチン、バスルームまで開放して下さった。日本の現代的マンションと比べれば義理にもモダンで美しいとは言えないが、築後何十年から見れば近代的で綺麗に使われている。何よりも娘さん達や奥さんによるホームメイドのもので部屋の中がインテリアされ、家庭の温かさを感じる。特に娘さんとお母さんの共同制

作による小さい土人形が子供の成長するごとに作り足され収められた人形ケースは印象的であった。ロシアの古い民族衣装(男・女の)を用意してくれてあって、それを身につけて記念撮影をしたのがこの



写真である。ニュージーランドやトルコでも家庭訪問をした経験があるが、中でもここモスクワのご家庭の訪問が一番暖かく開放的であり楽しかった。市民レベルでの国際交流は本当に人と人の心が通じ合うものだと、人間は皆同じなんだとの思いを強くする。

長女は17歳今服飾関係を勉強中、そして次女は15歳装飾関係を勉強中とのこと。その作品を見せてくれたが年齢の割にはなかなか優れものであり感



心する。そんなことでホームメイドのケーキやお菓子和ロシア風お茶の流儀による接待を受けながら語り合う中で、話は教育問題になった。ロシアでは義務教育9年、前半5年、後半4年だそうである。更にあと2年は自分の将来の展望を見つめながら学習する義務が生ずる。前半の5年で自分の将来の方向を定め、後半はその専門的な学習に入る。日本でのオール普通科傾向とは大きな違いであり考えさせられる。今では小学校入学時に、その能力により英語の学習をし、小学校3年から英語学習に入る子供もいるとか。(ペレストロイカ以後の教育)

奥さんはこの新しい能力別教育の方法は反対で、以前のように同じスタートをする方が差別が生じないと自分の意見をしっかり持っている姿は立派である。これらの話し合いは日本からモスクワ大に留学し、そのまま11年間モスクワに住んでいる清水さんという女性が同時通訳をしてくれての会話で、この日本女性は優秀であった。殆んど家庭では夫婦共稼ぎで、今一番困っていることはペレストロイカ以後国営の保育園が閉園となり、子供を預ける場所が無いことだと言う。ペレストロイカから15年この国は大きな変化と混乱が生じたことを現実を知るようになった。ここのご主人も以前は国営企業で宇宙工学関係の仕事をしてきたが矢張り国営企業が閉鎖されることになり、今では民間の企業に再就職をしたとのことである。

かつては各地方に、コアになる国営企業があり人々の生活を支えていたが、その殆どが閉鎖されることとなり今では地方の人々の生活が大変困窮している。建設ラッシュに沸くモスクワの様子がイコールロシアとは思わないで下さいという奥さんの言葉が印象的であった。

しかし街に出れば、ロシアの若者達がヨーロッパ



やアメリカの若者達と同じような服装をし、スケートボードを楽しみ、車社会の中で生活をしている。そして夜にはホテルのバーでお酒を楽しむ姿など自由を享受している姿を見るにつけ、もうこの国も以前には戻れないな、そしてあと10年も経過したら更に大きく変わっていることだろうと強く実感をした旅でもあった。

それは20年前に中国を訪れた時にも感じた同じ思いでもある。